

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

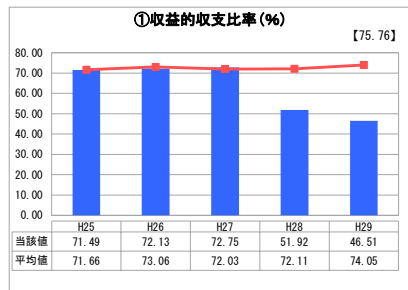
岡山県 西栗倉村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	98.91	3,150	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,487	57.97	25.65
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,452	0.12	12,100.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



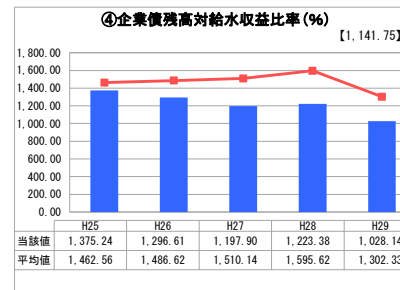
「単年度の収支」



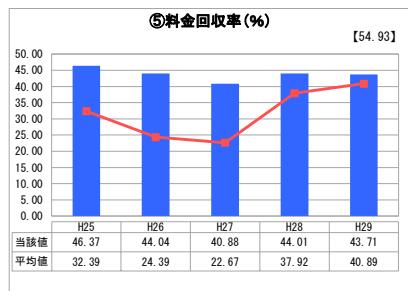
「累積欠損」



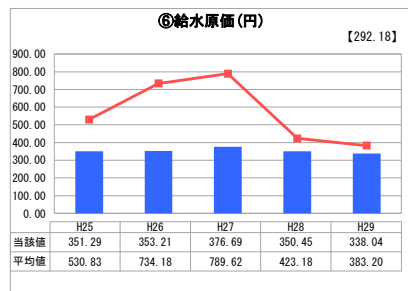
「支払能力」



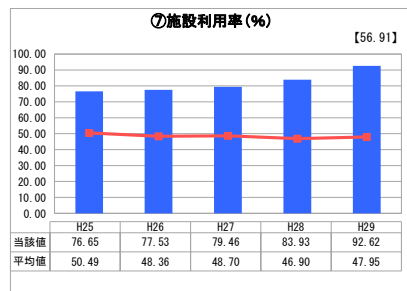
「債務残高」



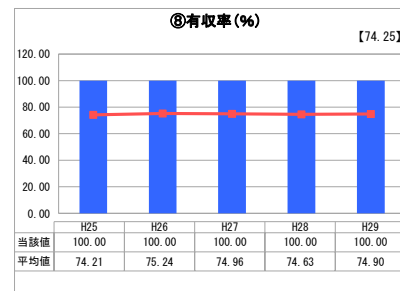
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

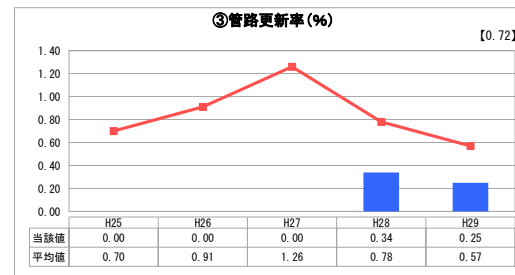
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性について、①収益的収支比率から見られるように実質赤字経営となっており、経営の改善が急務と考える。実質地方債償還金が赤字となっている。平成30年度の償還によって一時的に償還残が約4割近く減る見込みではあるが、平成27年度から行っている施設更新にかかる地方債の償還により、当年度並の償還額になる見込みであることから経営改善をしなければ赤字経営が続く見通しとなっている。

投資について、④企業債残高対給水収益比率から類似団体と同様、企業債は減っているが上記のとおり状況である。

料金水準について、⑤料金回収率 起債の償還については料金で賄われている状況ではないため、適切な料金収入の確保が必要であり、検討が必要と考える。

費用の効率性について、⑥給水原価から類似団体と比較し、費用の効率性が若干高い。

施設の効率性について、⑦施設利用率から類似団体と比較し、効率的に給水を行っていると判断出来る。

以上より、類似団体と比較した場合、現状においては費用及び施設の効率性は高く、経営に合った施設規模であると考えられるが、今後老朽化した施設の更新等を行っていくことで効率が悪化する可能性が高いため経営改善が必要である。

### 2. 老朽化の状況について

昭和60年から順次供用開始しており、供用30年程度が経過している。浄水場施設について、平成27年度から順次機器等の更新を計画、実施している。

管路について、耐用年数の40年を迎える平成37年度以降までに計画的に更新する必要がある。平成28年度より、老朽化した管路の更新を行っている。

## 全体総括

投資について、平成24年度時点での数値では、類似団体と比較し、投資規模も適切であったが、今後老朽化の状況から、施設の更新費用が増加する。現在も実質の赤字経営であり、基準外の一一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない経営状況であるため、料金の見直しを含めた経営改善・経営計画を行う必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。